

# 校長及び教員としての資質の向上に関する指標(教員等育成指標)

(教諭)		校長及び教員としての資質の向上に関する指標(教員等育成指標)						
キャリア・ライフステージ 年齢 教職経験年数	採用時 (～22歳)	基礎力の形成期 (23歳～27歳) 1～5年	実践力の向上期 (28歳～32歳) 6～10年	実践力の充実期 (33歳～37歳) 11～15年	実践力の発展期 (38歳～47歳) 16～25年	総合力の発揮期 (48歳～) 26年～		
校内での役割		学級担任、副担任等						
目指す教員像		主任職(学年、校務分掌)						
岩手の基本研修 (キャリア・ライフステージに応じた基本研修)		初任者研修	2年目研修	3年目研修	教職経験者 5年研修 (6年目)	中堅教諭等 資質向上研修 (11年目)	ステージアップ 研修<前期> (45歳～)	ステージアップ 研修<後期> (55歳～)
1 教員としての素養	<p>自ら学び続ける意欲・探究心</p> <p>使命感、責任感、倫理観</p> <p>教育的愛情、人権意識</p> <p>豊かな人間性</p> <p>コミュニケーション力</p> <p>課題に立ち向かう力</p>	<p>全ての児童生徒の可能性を引き出すため、「個別最適な学び」「協働的な学び」など「令和の日本型学校教育」を理解するとともに、時代や社会の変化、キャリア・ライフステージに応じて求められる資質を高めながら、自立的に学び、探究する姿勢を持ち続けている。</p> <p>教員としての使命や責任、岩手の教育を担う一員であることを深く自覚し、教育への情熱と誇り、高い倫理観を持っている。また、岩手の未来を担う児童生徒の生命を尊重し、自ら、そして組織におけるコンプライアンスの徹底に取り組んでいる。</p> <p>教育に携わる者として児童生徒に対する深い愛情を持ち、真剣に向き合っている。また、「子どもの権利条約」や「子ども基本法」などの理念を踏まえ、人権尊重の意識を身に付けている。</p> <p>豊かな人間性を持ち、社会人としての常識や幅広い教養を身に付けている。</p> <p>学校内外の様々な背景・価値観を持つ人々との対話を通して、円滑なコミュニケーションを図るとともに、チームとして課題解決に取り組むことの重要性を深く認識している。</p> <p>心身共に健康で、様々な状況でも感情をコントロールしながら、忍耐力とチャレンジ精神を持って、新たな教育課題を含む様々な課題解決に取り組んでいる。</p>						
2 学習指導力	<p>カリキュラム・マネジメント</p> <p>教科教育等の専門性</p> <p>確かな学力を育む授業</p>	<p>学校教育目標に基づく教育課程を理解し、学びの連続性や教科等横断的な視点を持って、学習指導を実践している。</p> <p>各教科等に求められる資質・能力や、指導と評価に関する理解のもと、教材研究等を実践している。</p> <p>児童生徒の発達段階を踏まえ、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実の観点から、学習者中心の授業となるよう改善を図っている。</p> <p>教育課程の編成・実施・評価・改善の状況を踏まえ、学びの連続性や教科等横断的な視点を持って、学習指導を実践している。</p> <p>各教科等に求められる資質・能力や、指導と評価に関する理解をもち、教材研究等を実践している。</p> <p>児童生徒の発達段階を踏まえ、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実の観点から学習過程を構想するなど、学習者中心の授業となるよう改善を図っている。</p> <p>教育課程の編成・実施・評価・改善を主体的に進めながら、学びの連続性や教科等横断的な視点を持って学習指導を実践し、若手教員に模範を示している。</p> <p>各教科等に求められる資質・能力を明確に理解し、指導と評価の改善を図りながら、教材研究や教材開発を実践し、若手教員に模範を示している。</p> <p>児童生徒の発達段階や多様性を踏まえて、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実、学習者中心の授業実現の観点から、積極的に研究授業の授業者を務めるなど、若手教員に模範を示している。</p> <p>教育課程の編成・実施・評価・改善に関する中核的役割を果たすとともに、学びの連続性や教科等横断的な視点を持って、学習指導の充実を牽引している。</p> <p>各教科等に求められる資質・能力に基づき、指導と評価の充実に向けて組織的に取り組み、教科教育等の専門性向上を牽引している。</p> <p>児童生徒の発達段階や多様性に配慮しながら、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に取り組み、学習者中心の授業が学校全体で展開されるよう牽引している。</p> <p>教育課程の編成・実施・評価・改善に関する指導的役割を果たすとともに、学びの連続性や教科等横断的な視点を持って周囲に助言するなど、学習指導の充実貢献している。</p> <p>各教科等に求められる資質・能力に基づき、指導と評価の充実に向けて組織的に取り組み、同僚教員に助言するなど、教科教育等の専門性向上に貢献している。</p> <p>児童生徒の発達段階や多様性に配慮しながら、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実、学習者中心の授業づくりに向けた助言など、学校全体の授業改善に貢献している。</p>						
3 生徒指導力	<p>発達支持的生徒指導</p> <p>いじめ等の問題行動・不登校等への対応</p> <p>教育相談</p>	<p>学級経営の方針に基づき、集団指導及び個人指導の両面から、全ての児童生徒に対する必要な生徒指導を実践している。</p> <p>いじめ等の問題行動・不登校等の未然防止に努め、兆候を発見する視点を持って児童生徒一人一人と向き合うとともに、他の教員や関係機関との連携を心がけている。</p> <p>学校の教育相談体制を理解し、必要に応じて助言を受けながら、随時的・計画的に教育相談の機能を教育活動に生かしている。</p> <p>学級・学年・部活動など様々な場面において、多様性を踏まえた児童生徒理解に基づき、集団指導と個別指導の両面から発達支持的生徒指導を実践している。</p> <p>いじめ等の問題行動・不登校等の未然防止に努めるとともに、実践や研修等を通じながら発生時の対応スキルを身に付け、組織的に児童生徒の成長を支援している。</p> <p>実践や研修等を通してカウンセリングや教育相談に関する技法を身に付けるとともに、スクールカウンセラーや養護教諭と積極的な情報共有に努めている。</p> <p>多様性に配慮した児童生徒理解に基づき、集団指導と個別指導相互の調和を図った生徒指導に向けて同僚を支援するなど、学校全体の発達支持的生徒指導を牽引している。</p> <p>いじめ等の問題行動・不登校等の解決に向け、指導計画の策定や児童生徒への指導、関係機関との連携等に中核的役割を担い、学校としての対応を牽引している。</p> <p>スクールカウンセラーや養護教諭など同僚と指導方針を共有し、教育相談を分担するなど、組織的な教育相談を牽引している。</p> <p>多様性に配慮した児童生徒理解に基づき、集団指導と個別指導相互の調和を図った生徒指導に向けて助言するなど、学校全体の発達支持的生徒指導の実現に貢献している。</p> <p>いじめ等の問題行動・不登校等の解決に向けた学校全体の対応力向上に貢献している。</p> <p>保護者等からの教育相談等に対して受容的に対処し、適切に助言するスキルを高めながら、同僚の育成に努めている。</p>						
4 マネジメント力	<p>学校組織における連携・協働</p> <p>危機管理</p> <p>関係者等との連携・協働</p>	<p>校内における自己の役割を理解し、必要に応じて同僚の助言を受けながら業務を推進している。</p> <p>常に児童生徒の安全や健康に配慮し、日頃から同僚との情報の報・連・相に努めている。</p> <p>学校が、家庭や地域、関係機関と連携・協働することの重要性を理解している。</p> <p>分掌内の動きを見通し、同僚と協働して業務を推進しながら、分掌運営に必要なスキルを向上させている。</p> <p>危機的的確な予測や、危機を察知した際の迅速な対応を意識して行動している。</p> <p>保護者や地域など、関係者と良好な関係を築き、教育活動に生かしている。</p> <p>幅広い分掌の経験に基づいて、学校全体の動きを見通し、建設的な提言をしながら業務を推進している。</p> <p>児童生徒集団に目を配り、危機を察知した際は、率先して迅速な行動をとっている。</p> <p>関係者との良好な関係を生かして、積極的に情報共有を図り、教育活動に生かしている。</p> <p>同僚の業務を支援するとともに、学校内外の動きを考慮しながら、評価・改善の視点を持って各種業務を推進している。</p> <p>危機を察知した際は、関係機関と適切に連携をとり主体的に行動するなど、危機対応を牽引している。</p> <p>関係者との信頼関係を築き、地域の教育資源を教育活動に繋げている。</p> <p>学校全体の状況を踏まえ、管理職に改善方針等を踏まえ、対話に基づく受講奨励等を行うとともに、OJTや校内研修等を活用し、教職員個々の資質や組織としての対応力を向上させている。</p> <p>危機管理</p> <p>災害等を含めた危機発生時の適切な初動対応を図るとともに、学校事故・いじめ・不登校等の未然防止に努め、当事者・保護者に対し組織的かつ迅速・的確に対応している。</p> <p>学校安全・学校保健・食育等に関する計画を策定し、周知・理解を徹底している。</p>						
5 復興教育の視点	<p>復興教育の視点</p>	<p>復興教育の理念や3つの教育的価値などを理解するとともに、児童生徒が震災の経験や教訓を学ぶ機会を設定するなど、復興教育を実践している。</p> <p>地域の実情・課題に応じて、児童生徒が、様々な教科等での学びを通して地域や関係機関と積極的に関わりながら、震災の経験や教訓を学ぶ機会を設定するなど、復興教育を展開し、復興・発展を支える人づくりに取り組んでいる。</p> <p>地域の実情・課題に応じて、学校全体の教育活動と関連付けながら、児童生徒が、家庭や地域、関係機関・団体等と協働して、震災の経験や教訓を学ぶ機会を設定するなど、学校としての復興教育を牽引している。</p> <p>今後予想される自然災害等に備えた実践的・実効的な防災教育を推進するとともに、指導計画の立案や校内体制の構築、教育課程の編成などを組織的・計画的に進め、教育活動全体を通じた復興教育の充実貢献している。</p>						
6 キャリア教育の視点	<p>キャリア教育の視点</p>	<p>本県のキャリア教育の考え方や学校の実情などを理解し、学びの連続性や社会との接続を意識しながらキャリア教育を実践している。</p> <p>家庭、地域、企業、関係機関との関係を積極的に築きながら、キャリア教育を展開している。</p> <p>児童生徒の主体的な進路選択に資するよう、ライフデザイン能力の育成を図っている。</p> <p>家庭、地域、企業、関係機関との連絡・調整に関する中核的役割を担い、校内外の関係者と協働しながらキャリア教育を牽引している。</p> <p>学校のキャリア教育に関する全体計画の立案、校内体制の構築など、社会の変化に応じたキャリア教育の具体的な推進に貢献している。</p>						
7 特別な配慮や支援を必要とする児童生徒への教育の視点	<p>特別支援教育</p> <p>多様性への配慮</p>	<p>児童生徒一人一人の特性や学習状況の理解に努め、教職員間の共通理解や関係機関との連携・協働を進めて、指導内容や指導方法を工夫している。</p> <p>特別な配慮や支援を必要とする児童生徒の特性等を理解し、多様性への配慮の視点を持って支援している。</p> <p>特別な配慮や支援を必要とする児童生徒の特性等を理解し、多様性への配慮の視点を持って、学習上・生活上の支援の工夫を行っている。</p> <p>校内支援体制構築の必要性を理解し、教職員間の共通理解や関係機関との連携・協働に主体的に取り組んでいる。</p> <p>学校が組織的に行う校内支援体制の整備について、関係機関と連携協働しながら牽引している。</p> <p>多様性への配慮に関する見識に基づき、特別な配慮や支援を必要とする児童生徒の特性等を理解し、多様性への配慮の視点を持って、学習上・生活上の支援に向けて組織的に取り組んでいる。</p> <p>多様性への配慮に関する見識に基づき、関係機関等との連携を進めながら、特別な配慮や支援を必要とする児童生徒への組織的な支援に貢献している。</p>						
8 ICTや情報・教育データの活用	<p>ICTや情報・教育データの活用</p>	<p>学校におけるICT活用の意義を理解し児童生徒の主体的・対話的で深い学びにつながる授業の準備・実施や校務の適切かつ効率的な遂行その他の教員としての職務をより効果的・効率的に遂行する手段としてICTの積極的な活用を図るとともに、児童生徒の情報活用能力(情報モラルを含む。)を育成するための授業実践等を行っている。</p> <p>幅広く教育データを活用し、自らの指導の改善と、児童生徒の学習の改善を図ることで、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現に取り組んでいる。</p>						

※各視点における総論については、「校長及び教員としての資質の向上に関する指標の改正について」(別冊P4～6)に掲載しているほか、別紙に記載しています。

(校長)	総合力の発揮期 (校長)
校長	校長
教職員の能力を把握して必要な支援を行い、関係者との連携・協働を図りながら、学校を組織体として機能させ、学校教育目標を達成している。	<p>●教諭として高めてきた素養・資質</p> <p>●教育者としての高い見識</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教職員をはじめ、児童生徒・保護者・関係者に説明できる教育哲学・理念がある。</li> <li>豊かな経験に基づいた確かな判断力、決断力、リーダーシップを有している。</li> <li>地域住民や関係機関の期待を受け止め、職務の重要性を自覚している。</li> <li>国・県・市町村の教育施策等について情報収集し、教職員に周知している。</li> </ul>
新任校長研修	<p>●学校経営計画の達成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自校の現状や児童生徒・保護者・地域・関係者のニーズを把握し、経営計画を策定している。</li> <li>学校の経営資源を最適化し、進行管理することで、目指す学校像や育てたい児童生徒像の実現に努めている。</li> <li>教育課程に関するPDCAを実践し、課題解決を図りながら学校教育目標の具現化に努めている。</li> <li>学校経営計画等に、特別支援教育に関する目標を適切に設定し、児童生徒の多様性を踏まえた学びの機会を提供している。</li> </ul> <p>●教職員の管理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教職員が、各自の強みを発揮しながら組織的に活躍できる適切な校務分掌を編成している。</li> <li>教職員の日常の勤務を管理し、不祥事の未然防止に努めている。</li> <li>教職員のメンタルヘルスを含めた健康・安全・働き方に配慮し、業務改善を図りながら、ハラスメントのない風通しのよい職場風土を醸成している。</li> <li>ICTの効果的な活用などを通じて、働き方改革を実現し、教職員の長時間労働の解消に努めている。</li> </ul> <p>●教職員の人材育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教職員の特性を見出し、日常的に資質向上やライブプランに関する指導・助言を行っている。</li> <li>教員等育成指標や個々の教職員の研修履歴等を踏まえ、対話に基づく受講奨励等を行うとともに、OJTや校内研修等を活用し、教職員個々の資質や組織としての対応力を向上させている。</li> </ul> <p>●危機管理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>災害等を含めた危機発生時の適切な初動対応を図るとともに、学校事故・いじめ・不登校等の未然防止に努め、当事者・保護者に対し組織的かつ迅速・的確に対応している。</li> <li>学校安全・学校保健・食育等に関する計画を策定し、周知・理解を徹底している。</li> </ul> <p>●事務管理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学籍・文書・財務・施設の管理について、法令等に基づき適切に行っている。</li> </ul> <p>●関係者等との連携・協働</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>家庭・地域・関係機関と適切に連携・協働し、より良い学校運営に努めている。</li> <li>学校教育目標・経営計画等について、学校運営協議会委員等の理解を得るとともに、保護者や地域に対して積極的に発信している。</li> <li>自ら、学校内外の関係者に働きかけ、その相互作用により、学校としての教育力の最大化を図っている。</li> </ul> <p>●学校をとりまく情報の収集・分析等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>様々なデータや、学校が置かれている内外の環境に関する情報について、自ら収集・整理・分析するとともに、必要に応じて教職員や関係者との間で共有している。</li> </ul>